

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370204111		
法人名	ヨシケン不動産株式会社		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	岡山県倉敷市真備町川辺2136-1		
自己評価作成日	平成23年8月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成23年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広々とした庭から眺める景色は開放感にあふれ、四季の移り変わりも感じとれる恵まれた環境の中にある。若い職員が多く、元気と笑顔にあふれるホームである。利用者に明るく家庭的雰囲気の中で笑顔でその人らしく毎日を過ごしていただけるよう、職員は、共に生活する家族のような気持ちで、お一人おひとりの心に寄り添い、一日一日を大切に支援するよう心がけている。利用者や家族とのコミュニケーションを大切にし、一緒になって考えたり共感をし、信頼関係を深めていくようにしている。利用者に毎日を生き生きと暮らしていただく為に、利用者の得意なもの、夢中になれるもの、楽しいと思えるものを見つけようと、職員がいろいろなアイデアを出し、試みている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

23年10月で開設7年目を迎えるグループホームで、職員間のコミュニケーションが良く、働きやすい、遣り甲斐があるなどの声が聞かれ、また、家族アンケートからはホームへの信頼度の高さが窺えました。目標達成計画の実現に向けてこれからも現状とチームワークの良さを大切にしながら内外研修とトレーニングに努め職員全体の更なるレベルアップに向けた取り組みに期待します。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の目につきやすいところに経営理念を掲示し、常に認識できるようにしている。何を大切に、どんな気持ちで利用者の方を支援するのかを、全職員で時間をかけて話し合い、施設理念を作り、職員の意識統一を図った。	社会的意義と責任を踏まえた代表者の理念を具体化しユニット毎に自分達の理念として理解し実践に繋げて行けるよう取り組んでいる。	理念を日々の実践に結び付け、大切に行っているものは何か・日々のケアに反映されているか、など話し合い、より身近なものとして共有し実践に繋げて行かれる事を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	草取りや散歩のときに近所の方と挨拶を交わしたり、近隣への買い物を利用者の方と一緒に生き、世間話などを行っている。定期的にボランティアなど幅広く来訪していただき、交流をしている。	地域に3か所、介護事業グループの施設があり代表者が率先して地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への招待を頂いた折には、参加させていただき、ひまわりのことを知って頂くようにしている。また、大勢のボランティア、実習生、中学生職場体験等、積極的に受け入れ、認知症の理解、支援に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	できるだけ大勢の方に会議への参加をしていただけるように会議と行事をセットしたり、会議の内容を工夫したことで、より多くの方から意見や様々な助言をいただき、サービス向上に向け活かされている。	現在年6回行っている。地域包括支援センター職員・民生委員・家族等でホームの現状・行事報告・質疑応答・意見交換等行っておりそれらを運営に反映させるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、必ず民生委員、地域包括支援センターの方に出席していただき、事業所の取り組み等を伝えている。また、職員、ご家族が利用者のことで困っていること、悩んでいることへのアドバイスもいただいている。	運営推進会議を通じて日常的な出来事の疑問や解決策をアドバイスしてもらうなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を開いており、身体拘束になりうる行為に至るまでに、職員全員がどこまで出来るか、何が出来るかの話し合いを行い、実行している。	年間計画に入れて勉強会を開き、身体拘束を防ぐにはどうすればいいか、また日々のケアの中で個々に合わせた接遇について話し合い拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について学び、言葉遣いについても勉強会を行っている。職員同士気になるところはお互いに注意し合い、カンファレンス時にも、例題を出して話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を活用されていた方がおられた時には、少し触れたことがあったが、以後、学ぶ機会を持ったことがない。今後、施設内研修で学ぶ予定にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個々に時間をかけて説明を行い、不明な点、疑問等には丁寧に答え、納得していただいた上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置しているが、利用者、ご家族から投函されたことがない。運営推進会議やご家族が面会に来られた時に、できるだけ聞かせていただくようにしている。	家族が地域に住んでいる入居者が半数以上あり来訪の際家族に声かけをし会話を大切にして話しやすい雰囲気づくりを心掛け、意見や要望を聞き運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を通じ、意見や提案を聞く機会を設けている。また、個人面談や就業中の合間を利用して聞くように心掛けている。	日々の話し合いから現場での意見や改善点など職員会議(管理者はじめ役員、代表者)で話し合い運営に反映させサービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間、休み希望などをできるだけ聞き入れ、無理な労働がないようにしている。定期的にグループ内3施設で福祉会議を行い、職員の処遇改善にむけて努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に施設内研修を行い、施設外研修も希望者、または順番に受講する機会を設けている。資格取得希望者には、取得費の立替をしたり、勤務時間への配慮をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、不定期ではあるが近隣同業者が集まり、ネットワーク作りや情報交換を行っている。職員同士の勉強会、交流はあまりできていないので、今後、相互訪問等の機会を持ちたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人ひとりの声に耳を傾け、その方の立場に立ち親身になって話を聞いている。利用者が安心して何でも話せる信頼関係を築くようにしている。更に本人の要望をどのようにすれば答えられるかも検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望をお聞きし、こちらでどのような対応ができるか、お互いによく話し合い納得しあえるようにしている。職員は家族連絡ノートで情報を共有するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の要望と、今ある情報を元にプランを立て、必要な支援を行なえるようにしている。他のサービスが必要だと生活の中で判断された時には、利用者と家族、職員が話し合いを行い、必要な支援を足せるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活(家事・草取り・買い物・散歩・農作業・遊び他)と一緒に楽しみ、会話(雑談)を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から利用者の状態をご家族にお伝えするようになっている。また、何か変わったことがあればご家族に報告、相談を行い、対応策の提案はしても、決定はご家族か利用者にしていただくようになっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅近くや思い出の場所などに、ドライブに行ったり、近くを散歩して、顔なじみの方とのお話を楽しんだりして頂けるような場を作るようにしている。	ホームが生活の場になりつつあり、自然な形で地域との関係継続に努めている。入居者の思い出の場所を家族に聞いて出掛けるなどこれまでの生活に配慮しながら支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事には必ず全員に声を掛け、体調の許す限り、参加して頂いている。また、その月の誕生日の方を皆でお祝いしたり、時には職員が利用者の方の間に入り、会話のできる環境作りに勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合は面会に行き、また、ご家族に様子をお聞きしたりして、可能な限り関係維持に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活の中で、難しい面もあるが、最大限希望、意向に沿った対応が出来るように努めている。困難な状態の時も視点を変え、何か出来る事はないかと何度も検討を行っている。	自分の思いを言えない入居者もあり言葉を引き出すように時間を掛けて話をしながら様子をみて対応し、また馴染めない入居者への対応も無理せず様子を見ながら本人の意向に添った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族、病院施設関係の方から情報を集め、日々、穏やかに過ごして頂けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の生活の流れを把握した上で、利用者の状態の変化や、身体的に向上している所に気付けるようにしている。情報交換を行い、統一した情報を持てるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、意見アイデアを介護計画に取り入れている。家族には面会時や電話連絡を取って、意向や意見をお聞きしたり、対応の説明を行ったりしている。	月1回のカンファレンスで日々の気づきや様子を話し合い、家族からの要望と本人の要望、状況の把握に努め、出来るだけ意向に添った介護計画の作成に取り組んでいる。	職員の個別対応能力のレベルアップにつながるよう、モニタリング及びカンファレンスの実施に期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子、情報は個人記録や申し送りノートに記入し、職員全員で情報や思いを共有している。職員の気付きや思いはカンファなどで相談して、実践や見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス計画書の内容を基本としているが、利用者の体調や状態をみて、その時に合った対応を行っている。その時には状況と対応を他の職員に報告するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の数多くのボランティアの方々の訪問を受け、一緒に楽しい時間を過ごされている。地域の、図書館や店に出かけ、地域の方との交流を大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望する病院をかかりつけ医として、受診時以外でも家族や医師より話が合った時には、報告を行い適切な医療が受けられるようにしている。	以前、緊急事態が起きた事をきっかけに訪問診療を取り入れ月2回の往診により健康管理と適切な医療受診の支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診、往診時に利用者の状況をきちんと伝えている。それ以外でも疑問や、状態変化がある時には連絡を行い、指示を仰ぎ早い対応を行うようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に行き、ご家族、病院関係者と情報交換を行い、退院後のケアについても相談している。退院前にはカンファレンスを行い、ホームで対応できるように体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の要望を聞き、ホームでは医療行為が出来ないことなどの説明を行っている。また、状態が変わった時にも、ご家族、主治医、ホームの三者で、よく話し合い方針を決めている。	以前入居者の家族の要望があり家族の協力のもとで終末期を看取った経緯もあり、ホームで出来る支援の取り組みが窺えた。	これからもホームで出来る終末期の受け入れ体制に向け、少しずつでも取り組みを進めていかれる事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが、救急法の講習を受けている。事故対応マニュアルを作成し、職員がいつでも閲覧できるようにしている。応急手当の実践は今後、施設内研修に取り入れていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、火災報知器を実際に作動させての訓練を、利用者の方も参加して行っている。周りに民家がないので、地域との協力体制に思案している。	火災・防災・防犯等実施月を決めて行っている。火災訓練は排煙口の開閉・消火器期限の確認、担架の組み立て、使い方の訓練等全職員で確認し合い避難の実施体験を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重し、個々を尊重した声かけや言葉遣いを心がけ、申し送り時などにはご本人に聞こえないよう、入浴や排泄介助もプライバシーに配慮している。	その場に合った声かけや接遇を心掛け、職員同士で注意し合って、その人らしさを大切にしたい対応に努めている。	介護者として更なるレベルアップに努力してください。自己研鑽は基より外部・内部研修でチーム全体のレベルアップに繋げていかれるよう期待しています。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を自己表現できるよう受容に努めている。また、自己決定をして頂けるような言葉の使い方にも気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人ひとりのペースを大切にしよう心がけている。その日にすぐに希望に添えないようなことは、長期的支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装であるかには気をつけるが、利用者に服を選んで頂き、服の色や形、似合っている等の会話を行う事で、利用者の活力も生まれているように思う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の形態等やむをえないものがあるが、盛り付けやお皿の選択をして、見た目にも気をつけている。食べられないものがある時には、代わりになる食材を使用し、提供している。	介護事業グループ全体で基本を定め、ホームとして献立をアレンジしている。園内の畑で収穫した野菜などの食材を入居者と一緒に準備したりしながら食事を楽しむ支援に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量や食事形態に配慮している。食事、水分摂取量は毎日きちんと確認し、摂取量が少ない時には、ゼリー、ヨーグルト、ミックスジュースなどで工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ、誘導を行い個々の状態に合わせて支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、個々の状態に合わせた介助を行い、全員トイレで排泄できるよう支援している。	一人ひとりの現状に合わせた排泄支援で本人の自立への成果もみられ、余裕を持った声かけ・誘導を心掛け(ズボンの上げ下げなど)時間がかかっても自分でしてもらうよう見守るなど)排泄の支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一目で排便状況が分かるようにチェック表を作っている。薬に頼りきる事無く、乳製品や、その他の食材の摂取、体操など便秘解消に関する事を行うようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間帯は決まっているが、必要な時、希望される時があれば可能などところで入浴が行えるようにしている。	混乱を招いた事があり、それぞれに曜日を決めているがその日の体調・気分・状況に配慮しながら随時対応している。また、入浴剤で季節を楽しむ支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立されている方は自由に休んでいただくようにしているが、そうでない方も長時間の離床を避け、状態を観ながら臥床していただく時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の内容が分かるようにファイルにトじてすぐ確認できるようにしている。きちんと服薬できたかの確認もしている。新しい薬が処方された時には、様子観察を行い、きちんと申し送り主治医やご家族にも知らせるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や月々の行事や外出、読書やゲーム等、楽しんでいただける物を用意するようにしているが、何にも興味をもたれない方が他に何に興味を示し、何が気分転換になるかを色々検討している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には買い物で外出し、行事や希望等で外出支援している。外出困難な方には、ホームの庭やホーム周りの散歩などで支援している。	日常的な買い物の支援や行事の他にもドライブなど気分転換を図る外出支援も行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失やトラブルにならないために、お金の所持は原則として出来ないことになっているが職員と一緒に買い物に出かけ、自分のほしいものを購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される時には電話をしたり、家族に手紙を書いたり、時には代筆したりして支援している。また、利用者の様子を見て職員の方から連絡し、声を聞いていただく事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除で、清潔を保っている。また、季節の壁面を工夫したり、芳香剤を置いたりして配慮をしている。こまめに温度管理を行うようにしている。	日中は共用空間で過ごす事が多く、不快感や混乱を招かない様に、暮らしに合わせた環境づくりを心掛けている。入居者の作品など随所に飾り、和やかな雰囲気づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでゆっくりくつろいでいただいたり、他の利用者の方と話を楽しんで頂いたりしている。食事の席は一応決めているが、席替えを行うなどで、様々な人間関係が作れるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使用していた物、使い慣れた物を持って来て頂く事を基本としている。配置には危険を伴わないように工夫をしている。	馴染みの物やレクリエーションの作品・写真などを飾り思い思いの居室づくりがされました。また、ベッドや家具など入居者に合わせて配置し安全への配慮もみられました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の認識や身体的な能力により”これがあると安心、自分ではできる”というものがあれば、検討を行い、必要なものがあれば設置するようにしている。		